

親鸞聖人 七百五十四
大遠忌 法要に向けて ④

「京都自死・自殺相談センター」開設へ

浅井成海

(あさい じょうかい)

七百五十回大遠忌法要は、いよいよ一年後にお勤めされることになりました。長年お待ちうけの態勢できましたが、ご法要はもうすぐそこまできています。

我われ一人ひとりがこのご法要を機縁に何をなしてきたか、その集大成を示すときであると同時に、今後何をなしていくべきか新しい行動を問われていると言えましょう。もちろん、このご法要で終わるのではなく、このご法要でいろいろなことが始まるのです。

もう一つ大事なことは、今までつねに問われつづけてきたことですが、七十五年間継承されてきた聖人の基本のお心は何であるかをあきらかにしておく必要があります。

「往生浄土の問題」「念仏申す生活」「還相回向の問題」といった、聖人のみ教えをいろいろな角度より分析すること、その基本の心をあきらかにすることができると思います。そのなかでも現生十益のなか、常行大悲の益に注目すべきでしょう。聖人の「信

卷」の大悲を行ずることについての主張は、自信教人信であり、お念仏のみ教えを伝えることにあるという点にあります。さらに大悲を行じつつ、小慈、小悲なき身であることを知らされます。お念仏のみ教えが排他的ではなく、万人の深い苦しみや悲しみの解放にあることを知ることもあります。

阿弥陀如来が苦惱の群萌の救いのために、招喚の勅命となつてこの私によびかけて下さるその基本の心は、智慧がそのまま如来の慈悲の心となつてはたらきかけて下さる、その実践にあると言えましょう。

教学伝道研究センターの基本理念は、親鸞聖人のみ教えをつねにあきらかにしつつ、それを現代にどう伝え、開いていくかにあります。従って早くより現代の最も大きな課題である「自死の問題」をとりあげ、アンケート調査とその集約、公開講演会を行い、その成果もまとめて発表してきました。

さらに、こうしたセンターの活動がきっかけとなり、民間団体である「京都自死・自殺相談センター」が二〇一〇年四月に立ち上げられ、具体的な活動に取り組み始めています。

その設立趣旨は、私たちの生きるこの社会を、ありのままに互いを認め合い、安らぐことのできるような、生きやすい社会にしたいという思いから、死にたいほどの悩みを抱える方の声に耳を傾けることにあります。

また、その活動は、人間的な苦痛、孤独、絶望、抑うつにより自死がせまっている人に対して、「友となり」「味方になる」という態度によって、無条件、無批判にその相談者の感情を受け入れていくことがあります。また、小規模の電話相談を本年度中に始める予定にしています。ゆくゆくは、より充実させて二十四時間の開設をめぐらせています。

決して一宗一派の教えを押しつけた

りするものではなく、他の行政機関、企業、自死対策に取り組む寺院や教団や民間支援団体と協力し、幅広いネットワークのもとに活動をすすめてまいるものです。

教学伝道研究センターの研究員が中心となって始まった活動ですが、現在は、さまざまな分野の方が活動に加わり十名程のボランティアスタッフが働いており、長期にわたる、しかも地道な活動をすすめていきたいと願っています。資金援助もふくめて、いろいろな方々から、一人でも多くの方のご協力、ご支援をいただきたいと思えます。

今後さらに具体的にどのような活動をなしていくかについては、「京都自死・自殺相談センター」事務局へお問い合わせ下さい。

阿弥陀如来のよびかけの声にもよおされ、教学伝道研究センターでは自死問題に地道に取り組んでまいりまし

た。その思いが、今回の団体の設立へと繋がる小さな小さな芽吹きとなり、現在、春を迎えて枝葉をのびし始めています。

如来の慈悲を頂戴し、お念仏のみ教えを喜んでいく私たち念仏者の精神性が、この活動の基盤となっていることは言うまでもありません。如来のはたらきは、私たちの中にとどまることなく、教えに生きる人格を通して社会に響いていきます。こうした実践の果実が、社会のあちこちで実を結んでいくためにも、七百五十回大遠忌に向けて、親鸞聖人の教えをたしかめ、きちんと継承していく努力を積み重ね、次の五十年を迎えていかなければなりません。

(教学伝道研究センター所長)

(問い合わせ先)

〒六〇〇一八三四九

京都市下京区西中筋通花屋町下ル

堺町九二

電話 〇七五―三七一―九二四四